



2

【ひろばの風】

看護学科の
設置の趣旨とその特色
看護学科設置準備室運営責任者
坂原 明



3

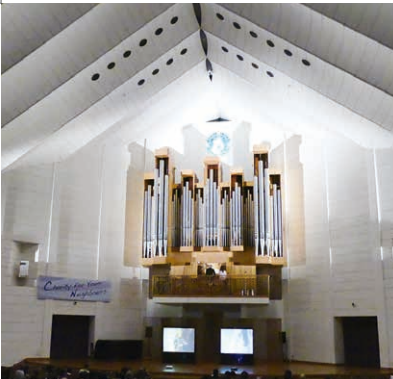
【Campus News】

保育学科学生が第20回あそぼうフェスタに協力
第13回留学生日本語スピーチコンテストで本学の留学生が「最優秀賞」を受賞
ボランティアセンター後期講演会「セラピー犬について」を開催
本学学生が愛媛県レクリエーション大会に協力
風早にぎわいまつりへの出店（地域貢献）

4 - 5

【Campus News】

家庭支援論でライフデザイン出張講座を開催
箏曲部が「聖マルチンの家」でコンサートを開催
大学祭パイオルガン演奏会「熊本地震 チャリティコンサート」募金のご報告
剣道部女子が中四国学生剣道新人大会で入賞
平成28年度学長賞を授与
ほか



6

【ESSAY】

「新しいもの」づくり
人間健康福祉学部 看護学科長
関谷 由香里



カタリナ ひろば

Vol.29 No.2
2017.3

聖カタリナ大学
聖カタリナ大学短期大学部
www.catherine.ac.jp



7

【ゼミナールインタビュー】

人間健康福祉学部
畔地 利枝ゼミ

ご寄付のお願い
【教育振興募金のご案内】

8 - 9

【就職活動レポート】

柴田 真衣さん
社会福祉学科 社会福祉専攻
花山 公さん
社会福祉学科 介護福祉専攻
田口 満收さん
健康福祉マネジメント学科 健康スポーツマネジメント専攻

田村 菜那美さん
健康福祉マネジメント学科 福祉マネジメント専攻
田中 嶺さん
人間社会学科
石丸 めぐみさん
保育学科

10

【教員著書紹介】

『共生の社会学』

ー ナショナリズム、ケア、世代、社会意識 ー
大黒屋 貴稔（聖カタリナ大学講師）
：太郎次郎社工デタス 2016年



10

【クラブ紹介】

カタリナ部
カタリナ部メンバー 一同



看護学科の設置の趣旨とその特色

看護学科設置準備室運営責任者 坂原 明

聖カタリナ大学は、平成29年4月、人間健康福祉学部の4つめの学科として看護学科を設置いたします。この看護学科の設置にあたり多くの皆様方のご支援とご協力を賜りました。ここに改めて深く感謝いたします。本稿では、本学看護学科の設置の趣旨とその特色についてお伝えしたいと思います。

1) 看護学科の設置の趣旨

我が国では急激な高齢化による医療ニーズの増大や療養の場の多様化が進んでおり、そのような状況に対応する看護職員の質と量を求める声が年々高まっています。全国の都道府県においては、当該自治体の保健医療の基本指針として地域保健医療計画が策定されていますが、本学が位置する愛媛県では、平成25年度から平成29年度までの5年間を対象として「第6次愛媛県地域保健医療計画」が策定されています。そして同計画におきましても、在宅ケアや終末期医療、生活習慣病対策などの新しい医療ニーズに対応できる質の高い看護職員の養成や研修体制の充実による資質の向上が課題として指摘されています。また、そのような医療サービスの安定的供給に資するに足る看護師のさらなる確保が必要であると述べられています。

本学はこのような現状に鑑み、地域の保健・医療・福祉のニーズに応え、将来に向けた地域社会の持続的発展に貢献するため看護学科を設置することを計画しました。そして国の審査を経て平成28年8月にその設置認可を受けることができました。本学看護学科の入学定員は80名（男女共学）で、看護師と保健師の国家試験受験資格が取得できます。そしてこの看護学科の教育は、伊予鉄道松山市駅に近接して新しく設置される「聖カタリナ大学松山市駅キャンパス」で行われます。なお、このキャンパスには、最新の教育機器・設備を完備した地上5階建ての校舎（講義棟・研究棟）を新築し、学生たちが充実したキャンパスライフを過ごせるよう環境を整えております。

2) 看護学科の特色

本学看護学科の教育研究目的は「看護実践能力を修得するための体系的な教育研究を行うことを通して、地域社会の保健・医療・福祉に貢献する豊かな教養を備えた人材の養成を目指す」というものです。そして、このような教育研究目的の達成に向け、看護学科では主に次の2つの特色を持った教育を行います。

第1の特色は、福祉系大学の教育資源を活かし、地域包括ケアを担う看護師・保健師を養成することです。日本の保健・医療・福祉制度は、従来の疾病や障がいの治療・回復を目的とする「医療モデル」を優先す

る考え方から、生活の質（QOL）に焦点をあて、疾病や障がいがあっても、地域で自立してその人らしく暮らすことを支える「生活モデル」へと移りつつあります。このような流れの中で、看護専門職には、身体的、精神的、社会的な全人的支援が求められており、地域住民や保健・福祉分野との連携協働による地域包括ケアシステムの実現が求められています。本学には、社会福祉学科、健康スポーツ学科、人間社会学科といった保健・医療分野と密接に関係する学問を学べる学科が揃っています。看護学科では、これら看護学以外の専門分野の授業を受けることによって福祉、介護、健康、心理、社会といった、地域包括ケアに欠かすことのできない視点をもった看護を学ぶことができます。

第2の特色は、松山赤十字病院を中心とする充実した臨地実習体制を備えていることです。本学は平成27年5月に地域医療支援病院である松山赤十字病院と同病院での臨地実習の実施を含めた協力協定を結びました。この協力協定に基づき看護学科では赤十字の看護教育を活かした教育を行います。松山赤十字病院は、大正2年に松山市に開院以来、地域の医療を担ってきた病院であり、日本赤十字社の看護師養成の歴史の中でも長い伝統を有している病院です。また、国内外における災害救護活動に実績のある病院としても知られ、そのような病院で多くの実習を行えることは、看護学科の人材養成の大きな力となると確信いたしております。

本学は開学以来、地域に密着し地域に貢献できる大学を目指してきました。看護学科では、地域医療が抱える問題に地域の皆様と共に取り組んでいける看護師を育てて行きたいと考えております。今後ともご支援ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



保育学科学生が 第20回あそぼうフェスタに協力

10月23日(日)、保育学科の学生約80名が城山公園やすらぎ広場で開催された「第20回あそぼうフェスタ(松山市児童館合同事業)」のイベント運営に協力しました。



このイベントは松山市社会福祉事業団が毎年開催している恒例イベントで、「レクリエーション指導実習」の授業の一環としてレクリエーション・インストラクターの資格取得を希望する学生が毎年協力しています。

学生は様々なイベント(イベント名:箱パズルあそび、もぐもぐアニマル)の企画・運営を行い、多くの親子の方に楽しい時間を過ごしていただきました。

当日は、レクリエーションの授業で学んだ内容を活かすことができ、学生にとってもレクリエーション・インストラクターとしての役割を学ぶ良い機会となりました。

第13回留学生日本語スピーチコンテストで 本学の留学生が『最優秀賞』を受賞



10月30日(日)に愛媛県留学生等交流推進会議主催の「第13回留学生日本語スピーチコンテストin愛媛2016」が南海放送本町会館で開催されました。

このコンテストは2004年から開催されており、今回は県内の高校・短大・大学等に在籍する10カ国18名の留学生が出場しました。

本学からは、台湾からの留学生で保育学科1年 馬心芷(マー シンヅー)さんが出場し、「日本語は海」をテーマに、日頃から学んでいる日本語で身振り手振りを交えてスピーチを行いました。

審査の結果、馬心芷さんが本学の出場者では初の『最優秀賞』を受賞しました。

ボランティアセンター後期講演会 「セラピー犬について」を開催

11月12日(土)、ボランティアセンターの後期講演会として北条地区まちづくり協議会とNPO法人日本ケアドック協会との協同でセラピー犬についての講演会とドックセラピー体験活動を実施しました。

北条地区まちづくり協議会は、今年度から「人と犬がともに幸せに暮らせるまちづくり」というユニークな事業をスタートさせましたが、この事業に聖カタリナ大学ボランティアセンターも参加しました。



前半は、日本ケアドック協会の方にセラピー犬について講演いただき、後半は特別養護老人ホーム聖マルチンの家を訪問し、実際にセラピー犬活動を体験しました。

本学学生が 愛媛県レクリエーション大会に協力

11月13日(日)、聖カタリナ大学と聖カタリナ大学短期大学部保育学科の学生が「第33回愛媛県レクリエーション大会(主催:愛媛県レクリエーション協会)」の各イベントの運営に協力しました。

このイベントは愛媛県レクリエーション協会が毎年開催している大会で、今年度は協会創立35周年記念の大会でもあり本学で盛大に開催されました。最初に愛媛県レクリエーション協会の会長を務める本学学長より開会の挨拶があり、様々なレクリエーションのイベントが行われました。



風早にぎわいまつりへの出店(地域貢献)

11月20日(日)に開催された風早にぎわいまつり(主催:風早活性化協議会、共催:松山市)に、本学も昨年度に引き続き協力出店しました。

本学では以下の5つのブースを出店し、親子連れの方を始め多くの方に楽しんでいただきました。なお、大学出店ブース(射的ゲーム)の収益(37,600円)は、松山市社会福祉協議会のまごころ銀行に全額寄付させていただきました。

ご来場いただきました皆様に心より感謝を申し上げます。

また、ステージプログラムではダンス部とジャグリング部(Mad Clowns)の学生がステージ発表を行い、お祭りは大いに盛り上がりました。



ブース名	出店内容
聖カタリナ大学・ 聖カタリナ大学短期大学部	大学案内 チャリティゲーム(射的)
聖カタリナ大学短期大学部 保育学科	子どもの遊びコーナー 【キャラクターメダル釣り・製作 (へびニョロ・竹とんぼ)】
聖カタリナ大学 ボランティアセンター	焼き鳥販売
聖カタリナ大学留学生(韓国)	チヂミ販売
聖カタリナ大学短期大学部 附属幼稚園	わたがし販売

家庭支援論で ライフデザイン出張講座を開催

12月2日(金)、家庭支援論(聖カタリナ大学短期大学部)の授業に愛媛県とNPO法人ワークライフ・コラボの主催によるライフデザイン出張講座が開催されました。



ライフデザイン出張講座とは、愛媛県地域少子化対策化事業「えひめの次世代を担う親子づくり推進事業」の一環で、急速に進む少子化に対応するため、近い将来、親になる可能性のある大学生を対象に、自らのライフデザインを考え、将来、結婚して家庭を持ち、子育てをイメージする機会づくりを行うことを目的とする講座で、愛媛県とNPO法人ワークライフ・コラボが連携して実施している出張講座です。

講座では、最初にNPO法人ワークライフ・コラボの担当者より事業の目的・趣旨説明等があり、その後、NPO法人子育てネットワークえひめ 代表理事 山本由美子氏とマミーズファミリー本間晶子氏及び松山認定こども園 星岡 木村裕也氏を講師とした、就職や結婚などの人生の転機、仕事と家庭生活との両立などについてのプレゼンテーションが行われました。

ディスカッションや講師の方への質問も活発に行われ、学生自身の将来設計を考える良いきっかけとなりました。

箏曲部が「聖マルチンの家」で コンサートを開催

12月2日(金)、箏曲部が特別養護老人ホーム聖マルチンの家を訪問しミニ・コンサートを開催して、入所者の方に楽しんで頂きました。

入所者の方の中には演奏曲と一緒に口ずさむ方もおられ、楽しいひとときを過ごすことができました。



保育学科2年生が 第57回中・四国保育学生研究大会に参加

12月3日(土)、環太平洋大学で開催された第57回中・四国保育学生研究大会に保育学科2年生22名が参加しました。

この大会は、中・四国保育士養成協議会の主催で毎年開催されており、保育者をめざす学生の学習成果の発表と学生同士の交流を深める機会となっています。

本学は、独自の「えひめマントマン」を創作し、郷土の良さを子ども達に伝え愛着心をもてるような作品作りに取り組みました。

会場満員の雰囲気の中で、今までの練習の成果を十分に発揮し、堂々と発表することができました。観客の方へオペレッタの楽しさが伝わり、その反応をダイレクトに感じながら、発表後は各学生が達成感と満足感を得て、有意義な活動となりました。



保育学科2年生が松山市立たちばな小学校 でクリスマス会に協力



12月4日(日)、保育学科2年生が松山市立たちばな小学校でクリスマス会(主催:土居田たちばな子ども会)のイベント運営に協力しました。

このイベントは毎年お手伝いをしている恒例イベントで、本学学生がクリスマスにちなんだ様々なレクリエーションイベント(じゃんけん列車・集合あそび・ジュースチャージゲーム・クリスマスクイズ)を企画し、1年生～6年生までの児童237名と一緒に楽しい時間を過ごしました。

大学祭パイプオルガン演奏会「熊本地震 チャリティーコンサート」募金のご報告

今年度の大学祭パイプオルガン演奏会は、ヨーロッパはもとより、南アメリカやフィリピンなどでも数々の演奏会で活躍されているジュセップ・マリア マスイボネ氏(バルセロナリセウ音楽院オルガン教授)をお招きし10月30日(日)に行われました。また、「熊本地震 チャリティーコンサート」として募金活動を実施致しましたところ、多くの皆様にご賛同くださり、総額202,641円のご協力をいただきました。

この募金全額は、日本赤十字社とカトリック・カリタスジャパンに寄付し、11月末に送金を完了いたしました。

ご協力いただきました皆様に心から厚くお礼申し上げます。



ビジネスプラン発表会で本学学生が 最優秀賞を受賞

若者の起業家意識を育む「エヒメ・ベンチャー・ネットワーク」(EVN、会長・大藪崇エイトワン社長)主催のビジネスプラン発表会が12月10日(土)、松山市で開催され、本学学生(人間社会学科4年・亀岡美咲さん)が最優秀賞を受賞しました。

当日は大学生と専門学校生の計14人が6組に分かれて、環境・住宅機器関連事業のダイキアクシス(松山市)と紙類販売のえひめ洋紙(松山市)の新規事業や販路開拓案について発表を行いました。

最優秀賞に選ばれた亀岡さんは、ダイキアクシスのバイオディーゼル燃料事業から、せっけんや美容関連用品などの製造販売事業を派生させることを提案しました。

剣道部女子が 中四国学生剣道新人大会で入賞



12月11日(日)、広島県立総合体育館において、第36回中四国学生剣道新人大会が開催されました。

女子団体戦において、第三位に入賞しました。

聖カタリナ大学及び聖カタリナ大学短期大学の次期学長の選任について

学校法人聖カタリナ学園は、12月16日(金)開催の学校法人聖カタリナ学園理事会において、任期満了に伴う聖カタリナ大学及び聖カタリナ大学短期大学の次期学長に、ホピノ・サンミゲル現学長が再選されました。

任期は平成29年4月1日から3年間です。

聖カタリナ大学 人間健康福祉学部長選挙について

聖カタリナ大学人間健康福祉学部は、現学部長 恒吉和徳教授の任期満了(平成29年3月31日)にともない、次期学部長選挙を12月20日(火)に行い、恒吉和徳教授が選出(再任)されました。

任期は平成29年4月1日から2年間です。

聖カタリナ大学短期大学部 保育学科長選挙について

聖カタリナ大学短期大学部保育学科は、現学科長 大上紋子教授の任期満了(平成29年3月31日)にともない、次期学科長選挙を12月20日(火)に行い、大上紋子教授が選出(再任)されました。

任期は平成29年4月1日から2年間です。

平成28年度 ロープジャンプ大会 (みんなでジャンプinカタリナ)を開催

12月16日(金)に保育学科学生、人間健康福祉学部学生、教職員が参加するロープジャンプ大会(みんなでジャンプinカタリナ)が開催されました。

ロープジャンプとは、10mのロープを跳ぶ大縄跳びで、「跳んだ回数×跳んだ人数」がポイントになるチームスポーツです。

このロープジャンプ大会は、短大・大学の学生の親睦と教職員との交流を深めることを目的として、保育学科の学生が企画運営・進行等を行い開催される恒例イベントで今回は第7回目を迎えました。

当日は、学生と教職員約170名が友達同士やサークル別(軟式野球部・バスケットボール部・バレー部)等の様々な方法で参加があり、16チームに分かれて、競技が行われました。

チームによっては、衣装を揃えてジャンプを行い、会場全体を盛り上げていました。

参加者全員がイベントを楽しみ、学生と教職員の親睦が深まるイベント内容でした。



風早マラソンのマラソンボランティアに参加

12月18日(日)、文化の森公園周辺で第4回風早マラソンが開催されました。

聖カタリナ大学ボランティアセンターでは昨年に引き続き、今年もマラソンボランティアに参加しマラソンの運営に協力しました。

午前の小学生の部は1km～2km、午後の大人の部では才之原集会所折り返しの10kmをランナーが走り抜け、晴れ渡る寒空の下、清々しい一日となりました。

ゲストランナーの土佐礼子さん(元五輪女子マラソン代表)や地元の方々との出会いの機会ともなりました。



平成28年度学内クリスマスを開催

12月20日(火)、聖カタリナホールにて学内クリスマスが開催されました。

最初にホピノ・サンミゲル学長の司式によるクリスマスミサが行われ厳肅な中、祈りが捧げられました。

ミサ終了後、聖カタリナ大学短期大学部附属幼稚園の園児による歌の発表と学長賞の授与が行われました。その後、会場を体育館に移して、学友会主催のクリスマス会が開催され、各サークルの発表や豪華賞品が当たる恒例のお楽しみ抽選会も行われ大盛況の内に終了いたしました。



平成28年度学長賞を授与

12月20日(火)、学内クリスマスにおいて、スポーツ・ボランティア・文化活動で活躍した学生及び団体に対する学長賞の授与式が行われました。

今年度の受賞者は以下の皆さんです。

【スポーツ表彰】

- ・剣道部女子(団体表彰)
- ・軟式野球部(団体表彰)
- ・卓球部 長谷川 裕也さん(保育学科1年)

【文化活動表彰】

- ・大学祭実行委員会(団体表彰)
- ・大学カタリナキャンプ(団体表彰)
- ・ダンス部(団体表彰)
- ・四国活性化プロジェクト2016 兵頭 遥さん(健康スポーツ学科3年)
- ・馬 心苴[マー シンゾー]さん(保育学科1年)





「新しいもの」づくり

人間健康福祉学部 看護学科長 関谷 由香里

この度、皆様方のご尽力とご協力を賜り、聖カタリナ大学人間健康福祉学部にて、平成29年4月、看護学科を設置致します。私は、平成28年度から、本学に設置されておりました看護学科設置準備室で、その任に当たらせていただいております。

この新看護学科は、愛媛県内の私立大学においては、初めての看護学科の開設となります。また、この新看護学科は、抜群の立地条件を備えた新築の松山市駅キャンパスに開設されます。まさに、新しいものづくりです。あたかも、何も描かれていない真っ白なキャンパスに、これから絵を描いていくような緊張感と責任感、そして、ここにかかわるすべての人たちの力を結集することができれば、今までにない看護学科を創造することができるのではないかという期待がふつふつと湧いて参ります。新しいことに取り組む際は、不安も多々ございますが、その分心躍るような感動や喜びを感じることもございます。この4月から、まずは前を向いて、慎重にかつ大胆に下書きの筆入れが始まることになります。

さて、私の人生を振り返りますと、つくづく、この「新しいもの」にご縁があったなと感嘆いたしております。それは、私の学校生活から始まっておりました。まずは、小学校では、6年間の在学中に2度新校舎が建設されました。この当時は、我が家が属しておりました校区は、ベッドタウン化が始まっておりました。その影響か、小学校も1クラス増えることになり、次々と新校舎が建築されました。私は、3・4年生の時に新築校舎にかわり、5・6年生の時に次の新築校舎にかかりました。校舎の構造自体はあまりかわりませんでした。が、とにかく新しい校舎は気持ちのいいものだと感じたのを覚えております。その反面、真新しい廊下や壁に傷をつけないようにと注意を受け、お掃除のときは緊張したことも覚えております。次に、中学校でも同じような地域の状況を受けて、新校舎が建設され、中学校3年生の時に、新校舎で1年間学びました。さすがに高校はないだろうと思っておりましたが、やはり高校2年生の初めに新校舎が完成し、残りの2年間、新校舎で学びました。しかし、この小・中学校と高校の新校舎が完成するまでは、プレハブの仮設校舎で学んだり、トイレも仮設のものであったり不自由ももちろんございました。言葉を換えれば落ち着いた学習環境であったかもしれませんが、どうも私は、環境が変わることや、環境の変化に応じて自分が変わることを楽しんでいたように思います。したがって、不自由だとか苦痛だと思ったことは一度もありませんでした。それよりも、変化のない同じ状況下にいることの方が、耐えられないのかもしれません。

その後、就職いたしました病院でも新築の病棟で勤務することになりました。また、看護専門学校の教員時代も新築ではありませんでしたが、その学校が移設されました。

大学院に在学中も、大学院生の研究室棟が新築され、後期博士課程の間、新しいPCも備えられ、恵まれた研究環境の

中で過ごすことができました。

大学の教員として、初めて就任いたしました看護大学も、この度と同じように新設校で、新しい校舎でした。当然のことながら、何もできあがっていないところに多くの学生さんたちを迎える立場になり、初めの1～2年は、着任していた教職員全員と学生さんたちと一緒に、話し合い、力を合わせて、大学づくりと学生さんたちへのよりよい教育サービスを提供することに必死だったと記憶いたしております。次に愛媛県に帰り、就任致しましたのも新設の看護学科でした。その次に就任致しました看護学科は、カリキュラム改正後で大学院に私の専門である「看護倫理」の授業科目が新しく設置されました。このように、何某か、自分の異動と共に「新しいもの」や組織の変革に遭遇することができたように思います。

聖カタリナ大学人間健康福祉学部看護学科で、私の人生の「新しいもの」づくりは終わりを迎えます。自分の人生の集大成の機会を与えて頂いたように思い、感謝の気持ちでいっぱいでございます。それと同時に、重大な責任を感じております。しかし、私一人ではございませんので、皆さんと力を合わせて、一歩ずつ着実に歩を進めてまいりたいと思っております。





人間健康福祉学部 畔地 利枝ゼミ



Q1：ゼミのテーマを教えてください。

子ども家庭福祉を取り巻く現状について、「児童・家庭福祉論」の知識をもとに、注目すべきテーマを見つけて深めていくことを目指しています。

Q2：ゼミの特徴&スタイルを教えてください。

上記のテーマのもと集まったゼミ生たちと、子どもがいる現場に出かけます。

今年度は、新居浜市にある児童自立支援施設「えひめ学園」と、学内の子育て支援ひろば「ぼけっと」を訪問しました。「えひめ学園」では、入所している中学生が日ごろから練習を積み重ねてきた太鼓演奏を聴いた後、職員の方々から学園について説明していただき、特に思春期の子どもにとって必要な事を考える機会をいただきました。「ぼけっと」では、事前訪問時にお会いしたお母さんが、ゼミ生訪問当日にも来てくださって、お母さんとお話しさせていただいたり、そのお子さん（乳児）と過ごさせてもらい、そのような中で子育てについて考える時間になりました。スタッフの方からは、子育て支援の多様なあり方をお聞かせいただき、普段のゼミ授業ではないくらいゼミ生は勉強させていただきました。

畔地 利枝ゼミは こんなゼミ

社会福祉学科3年 尾崎 七海

可能な限りリアルな感覚に近づけるために、子ども福祉に関わる現場に出かけます。実際に子どもと触れ合い、その言葉や行動から、子どもの思いを探るように努めてきました。現実になるとどうかわかりませんが、自分達が子ども関係の仕事をするようになれば、あるいは、子育てするときには、きっと役立てることができると思います。

ご寄付のお願い【教育振興募金のご案内】

聖カタリナ学園では聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部の教育事業を永続的に発展させるため、また、教育環境の維持、充実を図るための支援として、皆様からの募金のご支援を受け付けております。

趣旨をご理解いただき、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【お問い合わせ・お申し込み先】

学校法人聖カタリナ学園 法人本部事務局
〒799-2496 愛媛県松山市北条660番地
TEL 089-993-1300 / FAX 089-992-5616

経験を自信に！

柴田 真衣 社会福祉学科 社会福祉専攻 内定先：社会福祉法人 今治市社会福祉協議会

Q. その職場に就職を決めた理由

私は、今治市社会福祉協議会で相談援助実習をさせていただいたことが、就職を考えるきっかけとなりました。実習の中で、地域住民の方が主体となってまちづくりに参加できるようにと考えながら、職員の方々が活動されている姿を見ることが出来ました。人と人の関わりを最も大切にされており、自分自身が成長できる職場だと強く感じ、私も住民の皆さんと一緒に安心して暮らすことのできるまちづくりについて考えていきたいと思い、志望しました。

Q. 就職活動中に苦労したこと・工夫したこと

就職活動を始めた頃は、本当に自分に自信がありませんでした。就職したいと思うところと自分が合っているのか、自分は何がしたいのか悩み、気持ちが揺れてばかりでした。そのような時に、ボランティアに行ったり、講演会を聞きに行ったりしました。そうすることで、社協で就職したいという思いを再確認し、社協に入って幅広い世代の人と関わっていききたいという思いが強くなっていきました。

また、就職課の方や地域福祉分野の先生には大変支えていただきました。就職活動に対して悩みを聞いていただいたり、勉強を教えていただくこともありました。通うたびに「大丈夫」と声をかけていただいたことはとても励みになりました。

不安に感じた時、悩んだ時に、自分自身が活動してきたことや先生方に支えていただいたことを思い浮かべることで、「自分はこれだけやったんだ」と自信をもって面接に臨むことができました。

Q. 後輩たちへのメッセージ

就職活動は、自分と向き合う時間だと思います。履歴書の作成や、面接に向けての準備では、自分自身の今までの経験が大切となります。後悔しないように、就職活動をする中で迷ったり、分からなくなったりした時は、まずは興味のあることから行動してみてください。周りの人たちがどんどん内定が決まっていく中で、焦る気持ちもあると思いますが、真剣に取り組んだ先には、きっといい結果が待っていると思います。応援しています。

あせらず、自分のペースで！

花山 公 社会福祉学科 介護福祉専攻 内定先：社会福祉法人 恩賜財団 済生会 松山老人保健施設 にぎたつ苑

Q. その職場に就職を決めた理由

私はにぎたつ苑に見学に行かせていただきました。施設では一人一人の状態に合わせた個別ケアが行われており、もしもの時には病院も隣接しているため迅速な対応ができる環境が整っていました。卒業された先輩も施設で働いており、充実して働いているように見え、アドバイスを聞く時などに話しやすいと思いました。笑顔の多い職場であり、安心感のある環境が職員と利用者の間に深い信頼関係を築き上げていると感じ、私も利用者に信頼される介護福祉士になりたいと強く思うようになり、にぎたつ苑への就職を希望しました。

Q. 就職活動中に苦労したこと・工夫したこと

私が就職活動中に一番苦労したことは、履歴書の作成です。自分の長所やアピールしたいことを上手くまとめることができず、完成までに時間がかかってしまいました。字の綺麗さにも気をつけましたが、まずは真剣に書くことが大切だと思ったので一生懸命書くことを意識しました。手が止まってしまった時には就職課に行き、自分の意思を文章と

して上手く伝えるためのアドバイスを聞くことで、前進することができました。悩んだ時は就職課に行くことも考えてみてください。また、卒業された先輩の言葉や、試験の過去問題なども見ることができると就職活動中は就職課へ行く機会を増やしてみてください。

Q. 後輩たちへのメッセージ

就職についての悩みは人それぞれ違うと思いますが、まずは身近にある合同説明会などに参加してみてください。説明会に来ている企業の方は親切に説明してくれるので、あらかじめ気になる事業所があれば質問を考えておくのと良いと思います。また、新しく就職したいと思える事業所が見つかることもあると思います。周りが内定をもらって焦る気持ちもわかりますが、自分のペースで焦らずに就職先を見つけいくことが大切だと思います。就職のことで悩んだ時には就職課など相談できる場所があるので、利用も考えてみてください。皆さんの就職活動を応援しています。

自分の限界を超える！新たな挑戦への一步！！

田口 満収 健康福祉マネジメント学科 健康スポーツマネジメント専攻 内定先：株式会社 伊予銀行

Q. その職場に就職を決めた理由

地元で貢献できるような仕事がしたいという強い想いから就職活動を行いました。伊予銀行に興味を持ったのは、インターシップや会社説明会等いろいろな説明会に数多く参加し、実際に業務体験や先輩行員の方々の大変貴重なお話を伺ったことがきっかけです。業務内容を知れば知るほど興味が湧き、地元企業の創造と発展に強く貢献できると確信しとてもやりがいのある仕事だと思い、伊予銀行に決めました。より多くのお客様を大切に、一人一人と向き合い、信頼され、期待される行員を目指してしっかり精進したいと思います。

Q. 就職活動中に苦労したこと・工夫したこと

私が一番苦労したことは、履歴書作成において自己分析をしっかりして文章にまとめるということです。そして、履歴書作成だけではなく私は面接も得意ではないので、何度か就職課の方々に面接練習をして頂きました。笑顔で元気よく、滑舌よく話すことを意識し、本番では、

あまり緊張することなく終えることができました。練習することで、少しでも気持ちに余裕が出てくるかなと思います。履歴書にしても面接にしてもたくさんの時間をかけて自己分析をし、自分が思っていること、伝えたいことをしっかりと簡潔にまとめ、素直に伝えること、アピールすることが一番大事なことだと思います。

Q. 後輩たちへのメッセージ

本当に就きたい職業を見つける為にも、たくさんの説明会などに積極的に参加し、実際に働いている人の意見を聞くことやわからないことをわかるまで聞くことで、自分の就きたい職業を自分なりに分析することがとても大事だと思います。就職活動中は、周りの友人が内定をもらっても自分はなかなか内定をもらえないことがあり焦ることもあると思います。そうなった場合でもしっかりと自分のペースで自分がいきたいと思った企業から内定をもらえるようしっかりと準備をして悔いのないよう頑張ってください。

焦らない気持ち

田村 菜那美 健康福祉マネジメント学科 福祉マネジメント専攻 内定先：株式会社 レディ薬局

Q. その職場に就職を決めた理由

私は、アルバイトの経験から販売の仕事に興味を持つようになりました。レディ薬局でのインターンシップで、社員の方々が店舗で働いておられる様子を拝見しました。その際に、社員の方々がお客様とコミュニケーションをとりながらお客様のニーズを引き出しているところにとっても魅力を感じました。常にお客様のニーズに対応できるように、向上心を持ち商品知識を身に付け資格取得にも積極的に挑戦し、地域のお客様にご来店いただき、相談していただけるように働きたいと思い、レディ薬局に就職を希望しました。

Q. 就職活動中に苦労したこと・工夫したこと

私が就職活動中に苦労したことは、履歴書の作成です。その中でも「自己PR」に時間がかかりました。自分自身のことなのに私はなかなか書き出すことができなかったのも、周りの友人や家族に相談し、意見を求め、それを書き出すことから始めました。私一人では立ち止まってしまうこともあり、就職課で自分が悩んでいることについて相談すると

親身になって聞いてくださいました。次第に、自分の言いたいことが書けるようになり、納得できる履歴書を作成することが出来ました。内容に自信が持てると面接の際にも堂々と自信を持って答えられると思うので、折れない気持ちを持っていることが必要だと思います。

Q. 後輩たちへのメッセージ

合同説明会やインターンシップに積極的に参加し、その企業の話や仕事内容、雰囲気などを自分の目で見て耳で聞いて体験することが大切だと思います。そうすることで、自分が将来ここで働きたいという意識に繋がります。就職活動を通して、自ずと自分の働きたい職場を見つけることができると思います。

つらいことや嫌になることがたくさん起こってくると思いますが、自分のペースで周りに流されないように就職活動に取り組むことも大切なことであり、自分が将来したいことがブレないようにしてください。皆さんの就職活動が成就することを応援しております。

早めの情報収集 早めの行動

田中 嶺 人間社会学科 内定先：株式会社 西四国マツダ

Q. その職場に就職を決めた理由

私は大学一回生から接客関連のアルバイトをしています。そこで様々な経験をするうちにお客様と関わることが楽しく思えるようになっていきました。また、同じく大学に入ると同時に車を購入し、運転をするようになったことで車に興味を持ちました。そして自分がどのような職業が向いているのかを考え、車と接客に関連がある仕事としてカーディーラーに就職することを決意しました。様々なメーカーがある中でマツダを選んだ理由は、今、どのメーカーより勢いがあるように感じ、また何よりも私がマツダの車のデザインに好感を持っていたからです。自分が誇りを持てる車をお客様にお勧めしていきたいという気持ちから西四国マツダへの就職を決めました。

Q. 就職活動中に苦労したこと・工夫したこと

苦労したと感じたところは履歴書（エントリーシート）の作成です。自己分析もしないまま履歴書を書き始めたので、長所や短所、将来の目標などを記入する欄では書き上がるまでに長い時間を要しました。工夫したことは、工夫と言えるかはわかりませんが、何よりもスタートダッシュを大事にしたということです。3月1日に就活がスタート

し、それからほぼ毎日企業説明会や会社訪問に参加していました。そのおかげもあり、4月中には内々定をいただくことができました。一つでも内定をいただけたら、それからある程度ゆとりを持って行動ができるので、スタートダッシュを決めることができたのは良かったと感じています。

Q. 後輩たちへのメッセージ

これから就活を始める後輩の方々は、初めは何をすればいいかわからないことが多いと思います。私もそうでした。しかし、いざ始めれば自然と自分がやらなければならないことが見えてくると思います。大事なのは早め早めに動いて情報を収集することです。就活サイトには随時新しい情報が更新されるので常にチェックすることが重要です。その上で早めに行動することで次第にスムーズに進めていくことができます。また、周りが内定をもらったからといって焦る必要はありません。自分のペースを崩さず落ち着いて行動をすることも就活を成功させるためのポイントだと思います。皆さんのご健闘をお祈りしています。

自分から動く勇気を持って

石丸 めぐみ 保育学科 内定先：学校法人 挿桃学園

Q. その職場に就職を決めた理由

就職活動の第一歩として、幼稚園合同就職説明会に参加しました。たくさんの園が参加されており、それぞれの園の特徴や子どもたちの様子、就職試験の内容など細かい事まで聞くことができました。挿桃学園の先生方のお話を聞き、職場の雰囲気や福利厚生面を重視していた私にぴったりだと感じました。その後、園見学もさせていただきました。園の広々とした環境や先生方の温かな雰囲気を自分の目で再確認することができて、「ここで夢を叶えたい」と挿桃学園への就職を希望しました。

Q. 就職活動中に苦労したこと・工夫したこと

私が一番苦労したことは履歴書作成です。特に「私の特徴」という項目に時間が掛かりました。ここでは長所や性格など具体的に自分をアピールします。まずは箇条書きでいくつか挙げて、高校時代の部活や習い事などと結び付けていくことから始めました。授業でも自分の長所と短所を書くことがありましたが、いざ文章にしようとするとなかなか

進みませんでした。そこで、就職課へ相談に行くと明るく出迎えてくれて最後まで一緒に考えてくれました。皆さんも履歴書作成で困ったらぜひ、就職課へ行ってみてください。

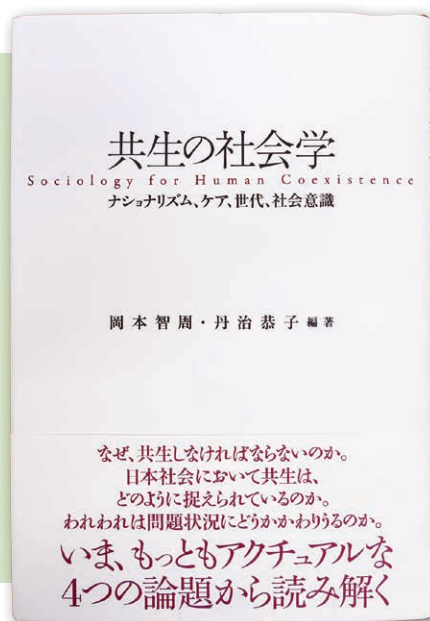
Q. 後輩たちへのメッセージ

就職について深く考え始めたのは二年生の夏でした。お世話になった実習園を志望する人もいれば、合同説明会などに参加して、一から探す人もいます。私も後者の一人で保育所か幼稚園かどちらに就職しようか悩み、初めて知る私を受け入れてくださるだろうかと不安な思いもありました。しかし、就職課の方や友人など多くの方々に背中を押していただき、最後まで頑張ることができました。皆さんも、支えてくれる人が側にいることを忘れないでください。最後に、「勇気を出して自分から動く」ことが大切です。ぜひ、進んで様々な園の見学に行ってください。夢を叶える場所を決めるのは皆さん自身です！後悔のないよう頑張ってください。

『共生の社会学』

— ナショナリズム、ケア、世代、社会意識 —

大黒屋 貴稔 (聖カタリナ大学講師) : 太郎次郎社エディタス
2016年



「世代間共生」「多文化共生」「共生型社会」「ジェンダー間共生」「健常者と障害者の共生」「人間と自然の共生」等、今日の日本社会において「共生」は様々な局面において語られるものとなっています。これらの「共生」の現状および今後の可能性や課題とはそれぞれいかなるもののでしょうか。また、市井の人々や学界はこれらの「共生」についてどのように理解しているのでしょうか。

これらの問題に一定の回答を与えるべく、9名の社会学者が「ナショナリズム」「ケア」「世代」「社会意識」という4つの角度から「共生」という現象に総合的な検討を加えたものが本書です。私は、第11章「戦後日本の社会学にみる学知の更新：『社会学評論』における「共生」言説の量的・質的変遷」の執筆を担当しました。同章では、社会学研究を例にとりながら、学界が過去60年間（1950年～2009年）「共生」をどのようにとらえてきたのか、その歴史的な変遷を実証的な手法で検討し、時代が下るにつれ「共生」への言及が増していくこと、また「共生」の語られる主な文脈が「親族組織」（50～70年代）→「環境」（80年代）→「共生社会」（90年代）→「エスニシティ」「他者」（2000年代）と推移してきたこと等を、明らかにしました。

このように「共生」について特定のイデオロギーに依らず実証的なデータに基づきながら広範に検討した類書は他にはなく、専門家の方のみならず、現代日本社会における「共生」という多面的な社会現象に関心のある皆様に広く本書を手にとっていただければ幸いです。

カタリナ部

50年の伝統を持つ「宗教研究部」と「宗研」は、名称を今年度「カタリナ部」に変更いたしました。まだ馴染んでいませんが、カタリナの名前をいただいて、大学にとってなくてはならない宗教行事を一手に担っています。5月の母を讃える日、大学祭オープニングミサ、クリスマスミサの司会進行やインターナショナル共同祈願、奉納、また厳粛な入学式、卒業式の主の祈りや聖書朗読、キャンドルサービスなどは必須活動です。昔から引き継いでいることは、新入生歓迎野外ミサとバーベキューです。これは、学長先生、教職員、シスターたちも巻き込んで、とくにバーベキューになると匂いにつられて、大勢の学生たちが集まってきます。カタリナ部はその仲間たちの協力も得て行事のさまざまな担当をこなしていきます。ぜひ一緒に大事な行事を担ってみませんか？



キリスト教に関心のある人もない人も大歓迎！大学行事を司りますので、マイクの好きな方、ステージに上がりたい方、聖歌隊としてミサのときに歌ってみたいという方、新たな活動を始めてみたい方、聖カタリナ大学でしか味わえない体験が待ってます。また、この名称で同様の活動をしている聖カタリナ学園高等学校のカタリナ部の皆さんとも何か連携できそうですね。

カタリナ部メンバー一同



学校法人 聖カタリナ学園

聖カタリナ大学

カタリナひろば vol.29 No.2

編集・発行

広報委員会

〒799-2496 愛媛県松山市北条660番地

TEL (089) 993-0702 (代)

kouhou@catherine.ac.jp